

## 令和5(2023)年「正覚寺報」2月号

## お知らせ

三年間のコロナ迦も漸くwith コロナの(コロナとは無事付き合っていく)時代に入りつつあります。感染法上の分類で2類から5類相当に変わる話が続けられています。個々人で気を付けて体を大事にしなければならぬことには変わりはありません。

以下は、二月の日程のご案内です。

仏壮お聴聞の会 2月5日(日)19時半～

仏婦例会2月16日(木)19時半～

永代経 2月25日(土)午前10時半～

## 潮騒のようなお念仏を復活させよう

正覚寺のお聴聞の会は、本願寺の実践運動の重点目標の一つです。

お聴聞は、聞名三昧(もんみょうざんまい)を体験することがその目的です。

如来様から本願力回向された大行を仰せの通りに衆生の上で実践させて戴くという、直ちに聞こえて下さるものこそは、如来様そのお方のお喚び声であることをお聞かせに与るのです。

大行とは、無碍光如来(むげこうによらい)の御名(みな)を称するなりとお聞かせに与って、「さようでしたか」と頭を垂れて口に出してお称えするとき、衆生の上で如来様のお喚び声がありありと聞こえて下さるのです。聞こえて下さるお喚び声をそのままお聞かせ戴く姿が「サマーディ(三昧:ざんまい)」だったのです。ですのでこれ

を聞名三昧と頂戴させて戴くのです。

住職がまだ五十才の頃、京都の町中で瓜生津隆真先生の御法話に付き従って興正寺の御法座にお参りした時、御法話が終わるや否やお聴聞の皆様のお口から「なんまんだーぶ、なんまんだーぶ」と満堂に潮騒の如きお念仏が発せられたこと、その響きが何とも懐かしかった事を思い起こします。

ですので、「潮騒のようなお念仏を復活させよう」というのが、正覚寺の実践運動の目標の一つだったのです。

たまたま、昨年のワールドカップはクロアチアとのPK戦に際して、南野選手に対して「最初に蹴ってくれてありがとう。」というのが、森保監督の懐かしさに溢れる言葉になりました。爾来、そのことを思い起こすにつけ、全世界の日本人なら今ならだれでも懐かしむ日本語になったのです。

ですので、住職は、森保監督の言葉に随念して「最初に称えてくれて有難う」を御法座毎の励ましの言葉にしたいと思います。

如来様から賜った「如来、すでに発願して衆生の行を回施したまふの心(慈悲心)なり(さあ、称えてご覧)との仰せに勇気づけられて御法座毎に最初にお念仏をお称え下さったお同行を讃える為であります。称えれば直ちに聞こえて下さるものこそは、本願のお心から喚び続けて居て下さる如来様そのお方のお喚び声だったからです。合掌。